

2021年12月10日

各位

会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング
 代表者名 代表取締役社長 塚田 正之
 (コード：2418 東証第1部)
 問合せ先 取締役人事総務部長 丸山 健一
 (TEL: 03-5464-0081)
 (URL: <https://www.tsukada-global.holdings>)

新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月に予定される株式会社東京証券取引所の市場区分の見直しに関して、本日プライム市場を選択する申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の移行基準日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなり、流通株式時価総額及び流通株式比率については基準を充たしておりません。適合に際して重要となっている業績の回復には相応の時間がかかると見込まれることから、当社は、両基準に関して2024年までに上場維持基準を充たすために各種取組を進めてまいります。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)	1日平均 売買代金 (億円)	時価総額 (億円)
当社の状況 (移行基準日時点)	—	152,452 単位	56 億円	31.1%	0.5 億円	—
上場維持基準	—	20,000 単位	100 億円	35.0%	0.2 億円	—
計画書に 記載の項目	—		○	○		—

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

(1) 基本方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、必要な資本政策の実施やコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでまいりました。こうした動きを継続しつつ、今般の基準に適合するためには、流通株式時価総額が肝要となることから、業績の回復及び向上を図るとともに、市場及び投資家を含むすべてのステークホルダーの皆様に対して積極的に情報を公開していくことが重要だと考えております。

(2) 課題

当社は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2020年度及び2021年度において親会社株主に帰属する当期純損失を計上し又は計上する見込みであり、特に流通株式時価総額の基準不適合は、係る一時的な業績不振による株価低迷が大きく作用した結果であると認識しております。したがって、まずは業績及び企業価値の回復を図り、継続的・安定的な株主還元を実施することが最重要課題であると考えております。

一方で、流通株式比率につきましては、適切な流通株式比率の確保が経営に対するガバナンスの強化につながり、それが投資家との建設的な対話へのインセンティブになるとの考えの下、現在流通性がないとみなされている株式が市場へ流通することが重要だと認識しております。

また、いずれにも関連する課題として、質及び量の両面における投資家への情報提供の充実が、適切な市場評価の形成につながると考えております。

(3) 取組内容

上記認識の下、まずは業績の回復に向けて主力事業である婚礼事業の推進に取り組んでまいります。ゲストハウスやホテルでの婚礼だけでなく、「2人で結婚式」や写真撮影を主眼においた「スタジオフォトパーク」等、多様なウエディングスタイルを開発し、時代のニーズにあった商品を展開します。IR・資本政策の観点からは、流通株式比率について当座の目標を35%とし、株式放出に向けてまずは主要株主への意義のご説明を開始しているほか、自己株式の消却・売出しについてもその実施を検討しております。並行して、当社ホームページへのサステナビリティページの新設を含むディスクロージャーの質及び量の拡充を行うことで投資家への情報提供を充実させるとともに、従業員持株制度の導入等、株式需要を増大する施策の実行を検討します。これらにより、流通株式比率及び流通株式時価総額を基準に適合する水準に引き上げてまいります。

以上